

社会技術研究開発センター(JST-RISTEX)  
「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」

# ローカル・コモنزの包括的再生の 技術開発とその理論化

研究開発代表者 桑子敏雄  
(東京工業大学大学院社会理工学研究科・教授)

ローカルな環境問題の解決を通してグローバルな地球温暖化に取り組むための「ローカル・コモنزの包括的再生の技術開発とその理論化」を行う。

「ローカル・コモنز」の3要素

- ① 空間(地域によって共同で管理される山林, 河川, 農業用水路, ため池, 海岸などの生態系, 自然環境)
- ② 資源(薪炭・流木などのエネルギー資源, 水資源, 山菜・きのこなどの食料資源)
- ③ 共同で空間を管理し, 資源を利活用する地域のマネジメント・システム、マネジメントの主体・組織

# なぜローカル・コモンズ再生か？

- ◆環境保全型社会基盤整備(ex. 多自然川づくり等)には大きなCO2削減効果がある。
- ◆脱温暖化につながる社会基盤整備には、「ローカルコモンズ再生」の視点が不可欠。
- ◆ローカル・コモンズ再生には、市民参加・市民主体による計画立案と継続的な維持管理が必要。地域空間がローカルコモンズとして認識されてはじめて、多様な主体が連携することが可能となる。
- ◆本PJは、「ローカルコモンズ再生」をテーマに、佐渡島の天王川・加茂湖での環境保全型事業と地域コモンズ再生の取り組みの成果を統合し、「ローカルコモンズの包括的再生」の技術開発と理論化、および環境保全型の国土整備に必要な主体形成の技術を開発し、理論化を図る。また、化石・鉱物燃料漬けの近代の作り直しの哲学を提案する。

# 本PJのフィールド

佐渡市

◆面積: 855.29km<sup>2</sup>

◆人口: 6.323万 (2011年)

◆世帯数: 24,604



出典: Google

佐渡空港

佐渡島

350

佐渡市

出典: Google earth

カモケン(佐渡島加茂湖水系再生研究所)  
の設立



- 東工大グループ  
桑子敏雄(東京工業大学大学院・教授) 専門: 哲学, 合意形成学
- 九州大学グループ  
島谷幸宏(九州大学大学院・教授) 専門: 河川工学
- 兵庫県立大学グループ  
豊田光世(兵庫県立大学・講師) 専門: 環境教育, 環境哲学

# 佐渡島天王川 自然再生事業に参加



before

## 多自然川づくり



after



### 多自然川づくりポイントブックⅢ

中小河川に関する河道計画の技術基準;解説

### 川の営みを活かした川づくり

～河道計画の基本から水際部の設計まで～

多自然川づくり研究会 著  
国土交通省 水管理・国土保全局  
河川環境課・治水課・防災課 編集協力  
財団法人 リバーフロント整備センター 編集  
公益社団法人 日本河川協会 発行

国土交通省の河川整備  
技術基準における  
CO2削減の制度化

Sa

# 加茂湖・こごめの入りの再生

- ◆ 後背農地の塩害対策のための基盤整備（農地関係）で湖岸の8割を覆う矢板とコンクリート
- ◆ 水循環の悪化・水質の悪化（湖内部および周辺丘陵）
- ◆ 湖岸付近の葦原喪失による生態系・生物資源の劣化
- ◆ 法定外公共物としての位置づけ
- ◆ 漁業者と行政との対立
- ◆ 地元漁業者の対立・分裂
- ◆ 漁業者による漁業廃棄物の投棄
- ◆ 市民の無関心とゴミの投棄

before

after



カモケンが民間資金を活用して環境にやさしい社会基盤整備を展開  
→「市民工事」の方法開発

# PJの成果

◆「社会的合意形成」と「プロジェクト・マネジメント」手法を組み込んだ地域の空間価値の発見・地域づくり・主体形成手法としての「ふるさと見分け・ふるさと磨き」技術を開発・実践、洗練し、社会基盤整備を市民参加・市民主導型で進める社会実験を実践して、具体的に地域の主体形成を行い、その方法論を理論化した。

◆コモンズ再生活動を通して、エネルギーも本来ローカル・コモンズであることを示し、化石・鉱物エネルギー漬け、コンクリート漬けの近代を克服するためには、エネルギーを含むローカル・コモンズ・マネジメントの創造的再生が不可欠であるという哲学を「近代のつくりなおしの哲学」として提案した。